REGULAR
CLOSE UP

リ ウ マ チ 科

当科は歴史を遡れば市立札幌病院が開設された際の内科にまで行き着きますが、最近の内科各分野の専門性の大きな違いによって分科を行った結果、平成21年4月にリウマチ血液内科が血液内科と当科に分かれ、院内で最も新しい診療科になります。歴史を振り返れば綺羅星のような先輩医師が大勢いる全国でも有数の臨床研究を行っていた診療科の流れをくんでいます。

スタッフは向井正也部長、近藤　真副医長の二名で他に月曜日の午後に星　哲哉非常勤医師（手稲渓仁会病院医師）がおります。

リウマチ科
部長
向井　正也

日本リウマチ学会 日本アレルギー学会 認定施設

当科の特色は、日本リウマチ学会・日本アレルギー学会認定施設であり、有数な総合病院として院内他科との連携により膠原病全般を当院のみで診療可能なことです。診療は、科学的に裏づけのある最新の医療を保険診療の範囲内で、十分な説明をした上で同意いただき行います。また、現在の日本の医学水準より高度のものは科学的な裏づけがあるものについて、倫理委員会や臨床研究審査委員会の承認の下、診療に当たっています。日本国内で現在行いうる最新で高度な医療を当院の他科等の助けを借りながら、当院で完結して行うことが臨床上の方針です。

5階西病棟にて。　左：近藤　真副医長

現在、診療を継続している患者数は約1500名です。関節リウマチ(RA)が約550名、全身性エリテマトーデス(SLE)が約220名、リウマチ性多発筋痛症が約70名、ベーチェット病、強皮症、各種血管炎症候群が各々約50名、筋炎が約30名で、他の膠原病と合併しているものを含めてシェーグレン症候群が約270名や抗リン脂質抗体症候群の約50名が多い疾患です。RAの約150名に生物製剤治療を行っています。入院患者数は常時15名程度で、SLEや血管炎症候群などがステロイド大量投与のために長期入院しています。レミケードの短期入院のRAが月に約40名程度います。

外来診療については、再来は向井が月、火、木。近藤が水、金。星が月の午後。新患は原則として紹介状が必要で、向井が水、金。近藤が火、木です。再来は患者さんであふれており、新たな患者さんが予約できるスペースもなくなってきています。多くの外来患者さんは落ち着いており、原病が急速に悪化する状態はまれです。急性上気道炎や急性腸炎などについてはほぼ一般の患者さんと同様に対処していただけます。病診連携として、このような合併する急性疾患は専門以外の先生にも診療をお助けいただけますので、ぜひご協力をお願い申し上げます。

外　来	月	火	水	木	金
新　患		近藤	向井	近藤	向井
再　来	向井 星 (PM)	向井	近藤	向井	近藤

新患は、原則として紹介のみとさせていただいております。

○●○　「血液・膠原病談話会」を年2回開催しています　○●○

地域の先生との「顔の見える連携」をめざして談話会を開催しています。

去る10月2日札幌市内および近郊の先生にお集まりいただき、第4回の談話会を開催いたしました。内容は、平成21年度の当科の診療体制とショートレクチャー、特別講演では財団法人日本生命済生会付属　日生病院総合内科　担当部長　藤原　弘士先生をお招きし、リウマチ疾患の病診連携に関してご講演をいただきました。

次回は、平成22年5月21日を予定しております。改めてご案内申し上げますが、多数のご参加をお待ちしております。